～幼保小の子どもの学びと育ちをつなぐ～

架け橋通信

第２０号
令和８年１０月発行
京都市教育委員会　学校指導課
幼保小の架け橋プログラム担当
TEL：075-222-3746

令和8年度　実践推進校対象
第1回　幼保小の架け橋プログラム情報交換会



今年度の「幼保小の架け橋プログラム実践推進事業」指定校ブロックを対象とした第1回幼保小の架け橋プログラム情報交換会が、10月5日（月）に京都市総合教育センターで開催されました。小学校・小中学校、幼稚園、保育園、認定こども園などから90名を超える教職員が一堂に会し、充実した情報交換の機会となりました。

吉祥院小学校　実践発表　「～子どもの思いに寄り添った伴走者に～」をテーマに、1年生担任の先生方より「体育科の授業実践」や「スタートカリキュラム」などの取組について発表いただきました。特に体育科の授業では、「まねっこあそび」「からだほぐしうんどうあそび」「マットあそび」の学習を関連付けるとともに、動物や虫の動きをイメージできるよう絵本を活用し、子どもの「やりたい」を実現できる環境を整えることで、子どもたちが自ら考え、活動の場をつくりながら試行錯誤を重ね、学びを獲得していく実践について報告いただきました。また、授業後には就学前施設の先生方との協議を深め、よりよい授業や保育を共に追究している取組についても発表がありました。







グループ討議　実践発表を受け、自校園で参考にしたいことや実践を進める中での事例や課題など、思いや悩みなどを話し合いました。

信じて任せることで、子どもたちはこんなに力を発揮できるのですね

小学校の事例を聞いて、自園の保育の在り方を問い直したいと思いました



吉祥院小学校のように架け橋を学校全体での取組にしていくことの難しさを感じています

改めて大人同士のつながりの大切さを実感しました

民間保育園・幼稚園・認定こども園に向けて
架け橋プログラムの研修が広がっています！

昨年 12 月の京都市私立幼稚園協会園長会の研修を皮切りに、各園の皆さまの御協力をいただき、民間園を対象とした架け橋プログラムの研修が着実に広がっています。

今年度は、京都市保育園連盟を通じて、保育園・認定こども園が各区ごとに構成する園長会において、

・幼保総合支援室から「架け橋の取組の趣旨や意義」の説明
・学校指導課から「具体的な実践事例」の紹介

を順次行っています。

現在、4つの園長会で研修をさせていただきましたが、今後、他の園長会にも広げていくほか、京都市日本保育協会や京都市私立幼稚園協会とも連携させていただきながら、市内全域で架け橋プログラムの理解と実践が更に深まるよう、取り組んでいきます。



第５回こどもみらい館共同機構研修会（７月 30 日）

子どもの育ちと学びをつなぐ

幼保小の架け橋プログラムについて研修！

～連携・接続を進めるために実践事例から学ぼう～

洛中小・朱一小ブロック（洛中小・朱一小・六満こ・光明幼・朱一保）実践発表

学校指導課・幼保総合支援室・こどもみらい館との合同企画の本研修会に、就学前施設と小学校の先生方総勢 114 名の参加があり、会場は熱気に包まれました。



☆入学式や入学当初の小学校生活（スタートカリキュラム）を**園長先生方と相談し、工夫**できた。
☆交流活動では、**ねらいや活動内容を幼保小で互いに語り合い、互いを知り、授業・保育への改善に繋げる**ことができた。
・図画工作「すなやつちとなかよし」：園の豊かな砂場の環境の中で５歳児と合同で実施。砂や土で存分に活動でき、気づきや試しがいっぱいに！
・生活科での交流活動：１年生自身が相手意識を持ち試し考え工夫する主体的な活動を展開。５歳児は小学生や学校生活への期待・憧れが膨らむ。
☆授業参観・保育参観：　互いの教育活動を知り、**子どもへの関わりや環境づくりなど先生が学ぶ。**

洛中・朱一小ブロック実践報告（概要）

☆**調整会議（架け橋ミーティング）で、話し合う**
　～架け橋プログラムに期待することは何か？～それぞれの方針などは尊重しつつ、「教育方針」「育てたい子ども像」「年間計画」等から共通項を見出し、**「この地域で育てたい子ども像」**を話し合った。その年の「キーワード」を設定し、一緒にできることを考え取り組んでいる。
☆**今年度のキーワードは「つなげる」**
子どもと先生・子どもと子ども・子どもと環境・幼保小の先生同士がつながり、よりよい授業・保育のために取り組む！

グループ協議

実践報告やそれぞれの架け橋プログラムの取組について活発な話し合いが行われました。



学校全体で取組むにはどうしたら？

５歳児は、こんな力が育っているのですね。では、育ちつなげるには？

大人同士語り合う機会をつくりたいですね。　日程調整は？

小学校の学習のことが少し分かりました。

コラム　なかにしサンヨの　幼分補給

「蝶の家がほしい子どもの思いを実現することで」



ある園の７月の保育です。科学センターで蝶の家を見てきた子どもたちが、「幼稚園でも蝶の家がほしい」と願い先生も一緒に考え、試行錯誤の末、保育室の一角に「蚊帳」を吊り、実現しました。すでに蝶だけではなく、ダンゴムシ、バッタ、ツマグロヒョウモンが育てられ、それぞれにふさわしい飼い方をしていました。そこには、カメラやマイクロスコープ、図鑑もあり、生態を調べたり、自分の図鑑を作ったりできる環境が設えられていました。遊びが継続されていることがわかります。今日の収穫は魅力の「アオスジアゲハ」と名も知らぬ「オオスカシバ」。大喜びでみんなで飛ぶ様子を見たり、名前を調べたりしていました。蝶を捕まえたい子、飼うためにえさを調べて、調達する子、写真を撮って手作り図鑑のページを増やす子等、心が動き、夢中になる視点は子どもそれぞれに多様です。それでもみんなで実現した蝶の家が毎日賑わっていることはみんなの喜びになります。参観してくださった小学校の先生が「誰も先生の指示を待たずに自分のめあてに向かっていますね」と感心してくださいました。生活科の単元につながりそうなヒントが見えました。主体的に遊びを進める５歳児の姿です。



中西　昌子（なかにし　しょうこ）
京都市教育委員会 学校指導課 参与
市立小学校教諭、幼稚園教諭・教頭、竹田幼稚園長、市教委首席指導主事を経て、平成二十年度から現職。